

そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL 355-2700 FAX 355-2704)

特別展「ボタニカルアートと ウェッジウッド」を開催中です

そらんぽ四日市では、4階特別展示室で特別展「英国王室に咲くボタニカルアートとウェッジウッド～植物画のおいたち～」を6月2日(日)まで開催しています。本展では、18世紀から19世紀のボタニカルアート(植物画)約150点をウェッジウッドの陶磁器とともに紹介しています。

植物を正確に描いた手彩色^{てさいしき}のボタニカルアートは、カラー印刷が未発達な当時の英国で、多くの人々の植物学への興味・関心を高める



『カーティス・ボタニカル・マガジン』
《ライラック(モクセイ科)》
1793年、
銅板、手彩色、紙
19.8×11.7cm
Photo Brain Trust Inc.

ことに寄与しました。こうした植物学のブームは、陶磁器の絵柄にも反映されています。

写真を掲載した植物図鑑を見慣れている現代人にとっても、植物の特徴をより分かりやすく描き出したボタニカルアートは、新鮮に見えるのではないのでしょうか。

1階のミュージアムショップでは、展覧会図録のほか、ハンドクリームやフレーバーティーなど関連グッズも販売中ですので、こちらも併せてお立ち寄りください。

文化財さんぽ

固 文化課 (TEL 354-8238 FAX 354-4873)

近代産業の礎 明治十九年設立 「三重紡績会社」

かつて川島地区に設立された「三重紡績所」は、明治政府がイギリスから輸入した紡績機の払い下げを受けて、三重県初の本格的機械紡績工場として操業しました。しかし、当初は動力源とした矢合川^{やごう}の水力不足に苦しみ、経営に行き詰まりました。

父から事業を継いだ10世伊藤伝七は大規模な工場建設の方針を固め、事業について相談した県令(今の知事)を介して、実業家・渋沢栄一と出会いました。

当時、第一国立銀行頭取だった渋沢は、同



昭和初期に撮影した「東洋紡績四日市工場」
(元三重紡績会社)

行の四日市支店長・八巻道成^{やまき}に資金調達を指示し、資本金22万円のうち10万円を自身で引き受けるだけでなく、四日市に出向いて資産家らにも出資を募りました。

こうして「三重紡績所」は再建され、明治19(1886)年11月、四日市港に近い浜町(現在の三滝公園付近)に、れんが造り二階建ての近代的工場施設を有する新会社「三重紡績会社」として設立されました。市の近代産業の礎となった紡績産業ゆかりの地の一つを散策してみませんか。